

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Ag'resh 2

2020. VOLUME.119



あぐれっしゅ



10周年 感謝を忘れず、
この先も共に

特集

仲間と共に産地振興
～若手農業者パワーアップ大会～

「みんなのよい食プロジェクト」とは、
これから日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家とJAグループ、消費者のみなさんと一緒にになって考え、行動していく運動です。



腕じまん

地域じまんのモノ語り

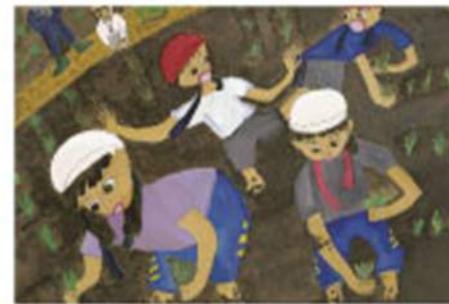
「ごはん・お米とわたし」の作文・図画コンクール

～6人の作品が優秀賞に～

令和元年度の第38回青森県「ごはん・お米とわたし作文・図画コンクール」で、JA管内からの応募作品6点が優秀賞に輝きました。同コンクールはJA青森中央会と県内JA主催で、今回は県内小中学校101校から図画95点、作文233点、うち当JA管内からは20校から図画37点、作文23点の応募がありました。

たくさんのご応募ありがとうございました。

優秀賞作品は次の通り



「やってわかった田植えの大変さ」
立崎 来実(十和田市立東小6年生)



「稻刈りをお兄さんとやったよ」
笹森 英義(十和田市立高清水小6年生)



「おとうさんがなえをうえたよ」
漆坂 遼(十和田市立法奥小2年生)



「夏休みのお昼ごはん」
田嶋 望空(十和田市立南小2年生)



「田植え」
山名 可恋(十和田市立東小6年生)



ナンバーワン ナガイモ早掘りNo.1 決定戦 開催日決定!

開催日時:令和2年3月29日(日)午前8時(集合)～午後1時まで

※雨天の場合は申込者へ前日連絡いたします。

集合場所:(一社)上十三広域農業振興会(十和田市大字大沢田字池の平1-7)

※詳しくは、本支店の営農担当までお尋ねください。また当JAホームページで、開催内容の確認と参加申込書のダウンロードができます。参加申込書は本支店・事業所にも用意しております。

お問い合わせ等は……七戸支店／坂本・中村 Tel.0176-62-2195

公式Facebook
JA十和田おいらせ

次回外務予定日 令和2年3/11(水)～15(日)

■令和2年2月12日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829
■編集/JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada-o.or.jp> ■Email:soumu@jatowada-o.or.jp ■印刷/アート印刷

表紙紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.90

けいしょうびと

継承×人

横浜町支店管内

うらすない ひかる
浦須内 光さん(31)

早く自分の農業を 築きたい

横浜町特産の契約加工バレイショを栽培し、比較的時間に余裕のある現在は、保存していたメークインの出荷作業に励む。昨年の野菜価格は、低迷が続いた。「例年に比べ3割の減収になった。少しでも手取り額のアップにつなげたい」と話し、出荷スタイルや販路先など様々な方策を模索している。

親元で修行中!

七戸町にある青森県営農大学校で2年学び、親元就農した。専業農家の5代目。JA野菜振興会の役員を務める父・敏(さとし)さんのもとで、畑作・水稻の栽培技術を学んでいる。

契約加工バレイショの植え付けが4月中旬ごろから始まる、田植え、ナガイモの植付けなど、忙しさが増す。作業倉庫には、最新の大型トラクター、ポテトハーベスターなど大型農業機械が並ぶ。機械の共同利用や作業委託で収穫する農家が多くいるなか、機械を所有することで「適時に収穫できるのが強み」と話し、昨年の収穫量は10アール当たり3.9トンと平年作以上を確保、品質も良かった。

プロフィール…うらすない ひかる 横浜町向平
組合員=敏さん(父)
家族構成/父、祖母、本人
農業経営/水稻2.8ha、ナガイモ1ha
加工バレイショ4ha、ゴボウ80ha



令和2年1月23日 撮影

告 知

総務部

みんなの声を聞かせてください

地区別懇談会開催

令和元年度事業活動の経過報告および、組合員の意見・要望を今後の事業に反映させていくため、下記の通り地区別懇談会を開催します。

開催日:令和2年3月3日(火)~5日(木)
報告事項:1)令和元年度事業活動について
2)令和2年度の取り組み方針について
3)穀類乾燥調製貯蔵施設新設についてほか

開催年月日	開催時間	開催地区	開催場所
3月3日(火)	午前10時30分	横浜町支店	横浜町ふれあいセンター
	午後 1時30分	むつ支店	むつ支店
3月4日(水)	午前10時30分	大深内支店	大深内支店
	午後 1時30分	下田支店	下田支店
3月5日(木)	午前10時30分	十和田湖支店	十和田湖支店
	午後 1時30分	ももいし支店	一川目コミュニティホール
3月5日(木)	午前10時30分	三本木事業所	本店
	午後 1時30分	七戸支店	七戸支店
		藤坂支店	藤坂支店
		上北支店	上北支店

臨時総代会を開催します!

日時:令和2年3月17日(火)午前11時より(受付:午前10時より)
場所:JA本店 3階大会議室

提出議案

議案第1号 穀類乾燥調製貯蔵施設新設に係る国庫補助事業申請について

議案第2号 固定資産の取得の変更について

金融部

ローン相談会(本支店のご案内)

毎月第3日曜日 9:00~15:00

2月
16日

3月
15日

相談会場
本店・下田支店
七戸支店・むつ支店

相談会場
本店・下田支店
上北支店・むつ支店

JANETTRO

農業機械・農業に関わる
設備資金等の相談も承ります。24時間365日受付中

各種ローンを取り扱いしております。会社員の方、自営業の方、JAとのお取引がない方もお気軽にご相談ください。

各種ローンがネットで仮申込みできます。申込み方法は「JAネットローン」で検索!!

金融部

合併10周年記念 年金友の会会員のつどい

あすか流一行と仲間たちのバラエティーショー

先着400名様

開催日時:令和2年3月7日(土) AM9時30分開場、10時開演
開催場所:JA十和田おいらせ本店 3F大ホール
事前申し込みが必要です。申し込み締め切り日…令和2年2月28日(金)

入場条件:当JA口座で年金をお受け取りになっている方、新たに口座に年金受給をお申込みされた方



もくじ contents

あぐれっしゅ

vol.119

2

(如月・きさらぎ)

特集 4~5p

若手農業者パワーアップ大会

告知版

2p

継承人

3p

NEWS&TOPIC 地域の話題 ..

6p

あぐれっしゅ情報①

10p

あぐれっしゅ情報②

12p

職員募集

ふれあい広場

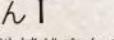
頭の体操 パズル?

13p

information ..

14p

腕じまん



地域じまんのモノ語り ..

16p

JAの概況 令和2年2月1日現在

正組合員数/6,466人

准組合員数/5,100人

役員数/25人

職員数(准職・嘱託含)/281人

貯金高/798億1,343万円

貸出高/172億3,094万円



▲「テツandトモ」のステージショーで一緒に会場を盛り上げる参加者



▲各テーブルを回る竹ヶ原組合長



大会を終えて…

J A管内の若手農家が地域、品目を越え、それぞれ情報を共有し、お互いの想い、将来を語り合う絶好の機会になりました。彼らの意欲をJ A事業に反映し、地域農業の発展につなげていきたい。

大会前には常農指導員2人が、試験圃で取り組んできたコスト低減や施肥効果などの結果を発表。また、会場には肥料メーカー5社による常農相談コーナーを設け、参加者は春作業に向けた施肥管理のアドバイスなどを受けていました。

出席者は各テーブルで、食事を堪能しながら農畜産物の生産に関する情報交換などに花を咲かせ、「テツ and トモ」の漫才ショーや、テレビなどの豪華景品が当たる大抽選会を楽しみました。



合併10周年記念

仲間と共に产地振興 ～若手農業者パワーアップ大会～

特集

J A本店で1月17日、若手農家の交流を通じ、生産意欲を高める「若手農業者パワーアップ大会」を開きました。20~40代の農業後継者ら300人が集まり、魅力ある農業、儲かる農業に向け、产地を振興しようと土気を高めました。



折田 和久さん(42)

「我々畜産後継者は、多くの仲間と共に幾多の試練を乗り越え、日本古来の和牛生産に最善を尽くし、地域農業の発展をめざす」

農業経営…肥育牛30頭、繁殖牛35頭
子牛20頭



佐々木 祐輔さん(35)
決意表明

「私の夢は、明るい農業を絶やすことなく創り続けていくこと。農業を生業とするものとして、今後もJAや皆さんと共に歩んでいきたい」

農業経営…水稻7ha、ナガイモ2ha
ニンニク2.5ha、アスパラ250坪

地域農業の次世代づくりを目的に企画して2年度目。あいさつで竹ヶ原幸光組合長は「ネットワークを広げ、互いに農業経営を高めてほしい。安心して農業ができるようJAも支援する。この地から魅力ある農業を発信し次世代へつなげよう」と述べました。情勢報告では、斗澤康広常務理事が「めざましい進化～スペインの農業情勢～」と題して講演。農業の生産現場、集荷選果場、マーケティングに携帯電話やタブレット端末を活用してスマート農業を取り入れることで、グローバルGAP（農業生産工程管理）を農家・農協が普通の基準・認証として取り組んでいることを紹介しました（3月号で詳細を紹介予定）。

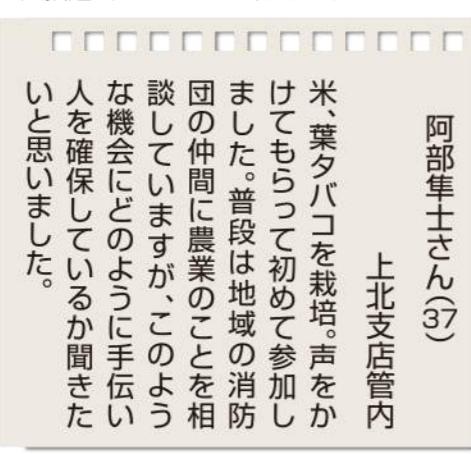
若手農業者を代表して、野菜農家で青年部長を務める東北町の佐々木祐輔さん(35)と、畜産後継者の会代表で十和田市の折田和久さん(41)が決意を表明。農業振興に向け、「仲間と共に歩んでいく」と力を込めました。



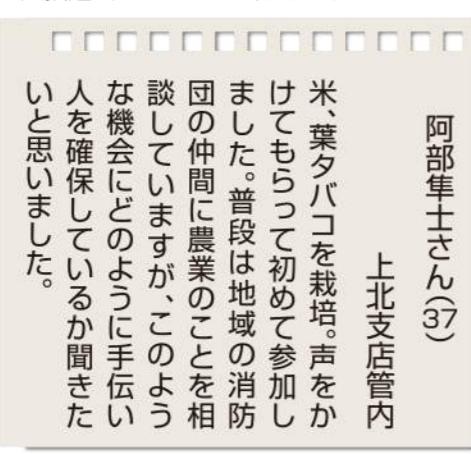
▲スペインの農業情勢を学ぶ参加者



▲肥料メーカーによる常農相談コーナー



米、葉タバコを栽培。声をかけてもらつて初めて参加しました。普段は地域の消防団の仲間に農業のことを相談していますが、このような機会にどのように手伝い人を確保しているか聞いたいと思いました。



米、葉タバコを栽培。声をかけてもらつて初めて参加しました。普段は地域の消防団の仲間に農業のことを相談していますが、このような機会にどのように手伝い人を確保しているか聞いたいと思いました。



参加者のコメント

田高亜衣さん(33)

三本木事業所管内

米、ナガイモ、ゴボウを栽培。前回も参加しました。作物は違うけど、それぞれの苦労話に共感できる部分もあります。仲間を作るうえで、このようなイベントは貴重だと思います。

袴田祐司さん(28)

下田支店管内

ニンジン、ダイコン、ゴボウを栽培。昨年の野菜価格は、出荷スタートから最後まで安値が続きました。ここで参加者の方々の意気込みを聞き、また頑張る意欲がわいてきました。

袴田祐司さん(28)

上北支店管内

米、葉タバコを栽培。声をかけてもらつて初めて参加しました。普段は地域の消防団の仲間に農業のことを相談していますが、このような機会にどのように手伝い人を確保しているか聞いたいと思いました。

阿部隼士さん(37)

上北支店管内

米、葉タバコを栽培。声をかけてもらつて初めて参加しました。普段は地域の消防団の仲間に農業のことを相談していますが、このような機会にどのように手伝い人を確保しているか聞いたいと思いました。



ナガイモ品質、味ともに高評価 ～産地強化戦略推進大会～

「ながいも産地日本一」の実現に向け、青森県とJA全農あおもりは1月24日、東北町で2019年度の産地強化戦略推進大会を開きました。

高品質、多収生産の推進を目的としたナガイモ共進会では、ナガイモ専門部会長で七戸町の寺澤和夫さんが2Lの部で最高位の県知事賞に輝きました。寺澤さんのナガイモは、大会参加者による食味の審査でも1番多くの票を獲得。味でも高い評価を得ました。

推進大会には、県内5JAの生産者など約120人が出席し、高品質なナガイモを作るポイントなどについて情報交換をしました。

熊野さん優秀賞に ～ニンニク拡大ヘフォーラム～

J A全農あおもり主催の「令和元年度ニンニクフォーラム」がJA津軽みらい常盤支店で行われ、生産者ら140人出席のもと、産地の維持拡大へ向け生産意欲を高めました。ニンニク共進会ではもいし支店管内の熊野雅人さんが上位2番目の青森県知事賞(優秀賞)に輝きました。

共進会には県内9JAから109点が出品され、球の大きさや形状、乾燥・表皮の状態などを審査。そのほか、生産農家による優良事例発表や、佐賀大学の吉賀豊司准教授による病害虫対策の重要性の講義なども行われました。

管内の入賞者

▶優良賞／久野尚樹(深持)、東寛貴(十和田湖)
—敬称略



▲県内の生産者が集ったフォーラム



▲写真左から入賞者の中野雄一郎さん、寺澤祐介さん、寺澤和夫さん、仁和勝千代さん

管内の共進会入賞者

(出点数: 4Lの部25点、2Lの部6点)

4Lの部/優秀賞…寺澤祐介(七戸町)
優良賞…仁和勝千代(十和田市)
中野雄一郎(十和田市)
2Lの部/優秀賞…中野雄一郎(十和田市)
—敬称略

ちぢみほうれん草 作柄良好でピーク ～暖冬で生育が前進～

十和田湖支店管内で1月下旬、冬限定の野菜「ちぢみほうれん草」が出荷たけなわとなりました。生育中に外気の寒さにあてることで、うまみと甘みが増します。本年産は暖冬で生育の進みが早く、作柄は良好。出荷は2月上旬まで続きました。

田屋地区の目時キワさん(81)は「寒さが足りないが、働くには楽。友人、夫の3人で共同作業し、毎日が楽しい。葉が軟らかく、シンプルにおひたしで味わってほしい」と話していました。



▲ちぢみほうれん草の収穫をする生産農家の目時さん

NEWS & TOPIC 地域の話題



「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化(地域貢献)」に向け、JA十和田おいらせは「創造的JA自己改革」の取り組みを実践中です。

グリーンソウル(十和田市)が 収益力強化で大賞

～県「攻めの農林水産賞」～

青森県攻めの農林水産業賞の収益力強化部門で大賞に輝いた、十和田市の(株)グリーンソウル・米田拓実社長と漆館諭吉専務取締役が1月27日、JA本店を訪れ、竹ヶ原組合長に受賞報告をしました。

(株)グリーンソウルは平成24年に設立。ダイコンを主力とする畑作、水稻を含む作付面積は92haで、平成30年の年間売上高が2億8千万円。大型機械・施設の導入や効率的な農地集約などにより、設立当初に比べ売上高が約11倍の伸びを示したことなどが評価されました。



▲受賞報告した米田社長(写真中央右)と漆館専務

米田社長は「JA、地域の人たちの支援・協力のおかげ。これからも地域の農業を守り、発展に貢献していきたい」と話しました。

このほか、JA管内ではむつ市で斗南丘牧場を経営する原英輔さんが農山漁村づくり部門で大賞を受賞しています。

■ 平均価格72万4,088円

～和牛子牛初せり～

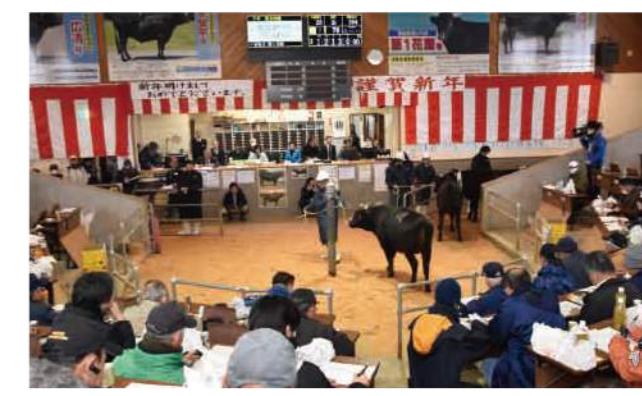
しっかり学び、しっかり経営 ～マネジメントスクール～

J A本店で1月27日、マネジメントスクールを開き、参加の若手農家12人が「経営管理と経営分析・診断」をテーマに財務・財形管理の重要性などを学びました。

講師を務めた弘前大学農学生命科学部の正木卓教授は、「まずは経営の実態を把握することが重要で、それには簿記記帳が大事」と強調。記帳の方法や必要性、貸借対照表と損益計算書を用いた経営分析・診断につながるサイクルなどを説明しました。



▲経営学を学ぶ参加者



▲活況の子牛の初せり